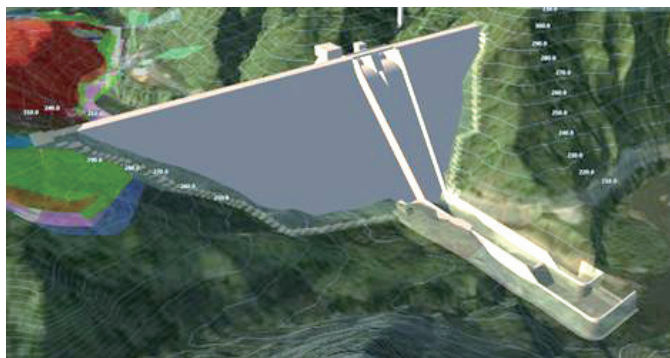




●ダム規模及び型式

(1) 鳴瀬川ダム

鳴瀬川水系筒砂子川に新たに建設する鳴瀬川ダムは、ダム高 107.5m、総貯水容量 45,600,000m³、ダム型式は台形 CSG ダムです。

台形 CSG ダムは、砂レキに水とセメントを配合して生成した CSG (Cemented Sand and Gravel) を台形状に盛り立てるダムです。

(2) 漆沢ダム

鳴瀬川水系鳴瀬川に建設された漆沢ダムは、宮城県が昭和 56 年に建設した多目的ダムです。鳴瀬川総合開発事業では、この漆沢ダムにトンネル洪水吐きを設置して洪水調節専用ダムに改造します。ダム高 80m、総

貯水容量 18, 000, 000m³、ダム型式はロックフィルダムです。

●鳴瀬川総合開発事業の治水効果

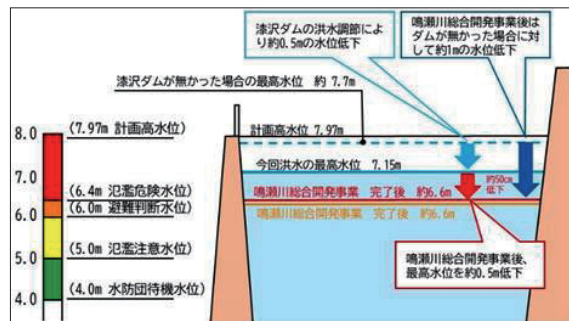
鳴瀬川水系河川整備計画は、戦後の代表洪水である昭和 22 年 9 月洪水に対して気候変動の影響を考慮した規模の洪水が発生しても、被害を防止することを目標としており、鳴瀬川ダムと漆沢ダムはその一翼を担う施設となります。

また、近年、鳴瀬川流域に甚大な被害をもたらした平成 27 年関東・東北豪雨、令和元年東日本台風において、両ダムが完成していた場合、被害を軽減していたと推定されます。

【令和元年東日本台風における治水効果】

令和元年 10 月台風 19 号に伴う洪水により、三本木橋水位観測所では、最高水位が既往第 2 位の 7.15m に達し、氾濫危険水位を 0.75m 超過しました。

シミュレーションの結果、既設漆沢ダムによる洪水調節が無かった場合、三本木橋水位観測所の水位は約 7.7m まで到達したと考えられ、鳴瀬川沿川





工事現場見学の様子

早期完成を、これまで以上に強く望まれています。令和6年度に鳴瀬川ダム本体の建設に向けた仮排水トンネル工事、令和7年には国道を一時的に迂回させるトンネル工事に着工し、また一步工事の本格化へ前進しました。

建設中のダムは、普

において甚大な被害が生じた可能性があります。この時、鳴瀬川総合開発事業が完成していれば、三本木橋水位観測所の水位を約0.5m低下できたと推定され、同規模の洪水に対し、ダム下流域の安全性が大きく向上すると考えられます。

●鳴瀬川ダムの利水効果

鳴瀬川流域の田畑は、「大崎耕土」と呼ばれ、世界農業遺産に認定されている国内でも有数の穀倉地帯です。令和7年は、平年に比べて降水量が少なく、鳴瀬川の流況は利水基準点である鳴瀬川中流堰下流でかろうじて正

常流量が保たれましたが、正常流量を下回る地点もあり、土地改良区による取水制限、水の反復利用や番水による懸命な対応により稲作への影響は最小限にとどまりました。鳴瀬川ダムが完成していれば、令和7年渇水に対し、ダムからの補給によって正常流量を下回る地点がなくなるとともに、取水制限は回避されていたものと考えられます。

●おわりに

近年、激甚化・頻発化する豪雨に加え、今年度の渇水を受け、鳴瀬川沿川の方々からは、鳴瀬川総合開発事業の

段見ることが出来ない大型機械の稼働など観光としても人気が高く、圧倒的スケールを感じられるダム本体や新たに創出されるダム湖などは、完成後も観光資源として期待できます。

令和6年度からは「KAMIDAM」と称して鳴瀬川ダムの工事現場見学やダムカレーの提供を盛り込んだ観光ツアーを地元加美町等と協力し開催するなど、地域活性化や広報に取り組んでいます。

今後もダム事業が持つ地域活性化の効果を最大限活用しつつ、事業の早期完成を目指します。



鳴瀬川ダムカレーの提供



KAMIDAM のチラシ